

## 12 技術科の本質的課題

### 1 制度上の位置と課題

①技術科は、普通教育としてすべての男女に技術教育を課す教科で、その本質的な課題は、「技術及び労働の世界への手ほどき」(ユネスコ、1974年及び1989年の勧告)をすることである。技術教育は、かつては男子のみに課されて性別分業意識を助長する役割を果たしてきた。今日では、男女共学とすることで、むしろ現実社会における女子差別の解消に貢献すべき教科とされる。②ところで技術科は、現行制度上は家庭科と「・」で結び付けられた「技術・家庭」として存在し、その枠内で技術科は生産技術に関する知識と技能を教授することを課題としている。すなわち技術科は、「日常生活にかかわる技術」を教授することを課題としている家庭科とは本質的に異なる目的と内容をもつ全く別の教科である。それにもかかわらず、家庭科と結びつけられて存在している点に技術科の存在構造の最大の矛盾がある。1998年改訂の学習指導要領はこの面で一步改善したといえるが、制度と内容の両面で技術科を名実ともに独立した教科とすることは、今日なお中学校教育課程改革の最も重要な課題の一つである。この点を解決すれば、中学校には「技術」あるいは「家庭」の免許状をもつ教師が最低1名いればよいという不合理も解消される。

### 2 基本的な教育内容面での課題

①技術科が生産技術の基礎に関する知

識と技能を教授する教科であるという趣旨を内容構成に貫徹することは、今日の技術科教育の最も重要な課題である。すなわち技術科については、日常の消費生活に関わる教科たる家庭科と明確に区別することが求められている。②1998年改訂の学習指導要領では、技術科の内容は「A技術とものづくり」と「B情報とコンピュータ」で構成されている。このAでは、従来必修とされていた電気領域は栽培とともに選択に位置づけられた。現代の生産技術体系において不可欠な製図や電気の学習を、それに相応しく位置づけることが求められている。③1998年版では、従来選択領域とされていた「情報基礎」領域が大幅に拡充されて必修とされたため、いわゆる情報処理教育も技術教育であるかのような誤解が広まっている。その本質において情報を処理する方法とその理論を教授することを目的としている情報処理教育は、技術教育ではないことに注意したい。④中学校学習指導要領の技術科は、技術論の観点ではいわゆる意識的適用説に立脚しているので、技能の教授を軽視するきらいがあることに注意したい。⑤近年職場体験学習が重視されているけれども、これをたんなる進路指導にとどめず技術教育の観点から再編することが求められている。

<参考文献>河野義顕・大谷良光・田中喜美『技術科の授業を創る』学文社、1999。

(佐々木孝)